

# 歴史を感ずる

特集

1

港区には長い歴史を持つ  
歴史建造物が数多く存在する。  
その場所を訪れば  
歴史を感じることができる。  
そんなスポットを紹介していく。



宝物展示室には空襲により焼失した第二代將軍秀忠公の靈廟を復元した10分の1スケールの模型が飾られている (Royal Collection Trust / ©Her Majesty Queen Elizabeth II 2015 Photo/平剛)



2016年に大門の所有権が138年ぶりに増上寺に返還された。これを受けて修復工事が行われることになった



徳川家の墓所。かつては荘厳で煌びやかな霊廟群が立ち並んでいたが東京大空襲で大半が焼失し、現在の場所に改葬された

江戸三大梵鐘の一つである大梵鐘は江戸時代からのもので、重さは15トンもある



紙に「南無阿弥陀仏」を自分で書いて願掛けをする一筆写経。500円で行うことができる



門の入口に書き記されている「今月のことば」。毎月1日に発行される機関誌「三縁」に掲載されているものを掲示している



東京タワーと一枚の写真に収まる大殿本堂

zojoji

# 増上寺

徳川家の菩提寺、芝地区のランドマーク!

**増上寺**は600年の歴史を持つ、徳川家とゆかりの深いお寺。大殿と東京タワーが並ぶ姿は、多くの人々にお馴染みだ。空襲で焼失してしまった建物も多いが、表の顔であり、重要文化財でもある三解脱門(三門)や、東京都指定文化財の経蔵、江戸時代に鑄造された大梵鐘など、ここを訪れると歴史を感じることができる。

毎年、増上寺を訪れる観光客は100万人と言われ、10年前と比較して外国人観光客は約10倍に増えているという。そこで新たなサービスとしてスタートしたのが、無料のスマートフォンアプリによるガイド。境内各所に設置されたビーコンに近づくと、自動で情報を入手して建物の名前や歴史を知ることができる。日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語に対応しているため、外国人観光客に喜ばれている。また、三門を入ってすぐのところ案内所を設置。信仰相談から東京タワーや駅への道の案内まで、増上寺の職員が幅広く対応している。

2015年に開設された宝物展示室では、貴重な展示物を見ることができ。なかでも展示の中心となるのは、かつて増上寺境内に造営されていた徳川二代將軍秀忠公の御霊屋の10分の1スケールの模型。これは明治時代にロンドンで開催された日英博覧会に東京市(当時)が出品し、その後、英国のロイヤルコレク

ションに名を連ねていたもの。この模型が100年以上の時を経て、イギリスから増上寺に長期貸与され、展示室に常設展示されることになったのだ。近年始めたサービスには一筆写経がある。これは「せつかく増上寺を訪れるからには仏教に触れてほしい」という考えから実施された試み。安国殿の写経スペースで、用紙に筆ペンで「南無阿弥陀仏」と写経して、奉納すると特別な御朱印をもらうことができる。

用紙には薄く「南無阿弥陀仏」の文字が書かれているので、それをなぞれば誰でも簡単に写経を体験することができる。ちょっとした修行気分を味わえるというわけだ。

増上寺は歴史と伝統を守りつつ、今後とも時代に合った新たなサービスを積極的に取り入れていく。

子育て地蔵は生まれた子供(孫)の無事成長を祈って建てられたもので、風車がトレードマーク



Map >> 1  
SPOT DATA  
東京都港区芝公園4-7-35  
03-3432-1431  
9:00~17:00  
年中無休

http://www.zojoji.or.jp/  
JR・東京モノレール「浜松町」駅から徒歩10分  
都営地下鉄大江戸線「大門」駅から徒歩5分  
都営地下鉄三田線「御成門」駅から徒歩3分  
都営地下鉄三田線「芝公園」駅から徒歩3分

# 堀商店

horishouten

異彩を放つ重厚感溢れるスクラッチタイル張りのビル



近代的な高層ビルが立ち並ぶなか、その店構は独特な存在感を発揮している

**近**代的な高層ビルが立ち並ぶ新橋で、ひと際異彩を放つ、スクラッチタイル張りの建物がある。それが明治23年創業の錠前を中心とした建具金物専門店、堀商店だ。

関東大震災の影響で最初に建てられたビルは倒壊。それを受けて地震に強い建物として昭和8年に竣工された当時のビルが、現在も使用されている。平成元年に東京都の「都選定歴史的建造物」に選ばれ、その後、「登録有形文化財」となった。ビルの入口には三段の階段があるが、これは建設当時にはなかったもの。時間が流れるなかで地盤沈下があり、最初に一段、また沈んで一段と階段が増え、現在は三段となっている。店内の床も一部は張り替えられているものの、市松模様のタイルはオリジナルで、建設当時からそのままだ。

4階建ての1階が店舗で様々な錠や建具金物を販売。2階から3階は事務所スペースで、最上階4階が住居用。このように最上階に住宅を設ける手法は、当時の東京において、高層化した商業建築に見出せる建築構成だ。都市住宅の系譜を知る上でも貴重な建物と言える。

創業当初は最新の欧米の錠前や建具金物などを輸入販売していた。その後、独自性のある数々の製品を開発。

1階の店舗では多種多様な錠を販売。重要機密用の扉、ニューギニアの盾をイメージした取っ手など、見ていて楽しく



「登録有形文化財」の看板が飾られている



こちらはニューギニアの盾をモチーフに作られたドアの取っ手

もともとは平らな場所に建てられていたが、長い月日が流れるなかで地盤沈下により、階段が必要となった



店内のタイル部分は昭和8年に竣工された当時のままのもの



世界各国から集められた錠を展示したショールーム。観覧は無料だが予約が必要だ



ショールームにはさまざまな錠がある。アフリカの木製錠にさそりの錠



なる商品が並ぶ。「安全性が高く堅牢なこと」「質感のある重厚なデザイン」。これは堀商店が一貫して守り続けている、製品開発における理念。丈夫で長く使え、重厚で美しく、使い込むほどに味わいを深めて毎日を楽しむ。これが堀商店が考える「本当に良いもの」だ。

2階には3代目店主、堀英夫が国内外で入手してきた、珍しい錠前を多数展示したショールームがある。

このショールームには古い日本の錠から、フランス、ドイツ、オランダ、韓国、イスラエル、エジプト、アフガニスタンなど、各国の面白い錠が揃っている。

この部屋は元々、南欧風の部屋をイメージして作られたもので、会議室として使われていた。

ショールームの観覧は基本的に無料。ただし、案内するスタッフがいない場合もあるので、事前に予約が必要だ。

Map >>

**SPOT DATA**  
 住 東京都港区新橋2-5-2  
 ☎ 03-3591-6304  
 時 [月~金] 8:45~17:30  
 休 土・日・祝祭日・夏季休暇・年末年始  
 http://www.hori-locks.co.jp/index.html  
 JR・東京メトロ銀座線・都営地下鉄浅草線「新橋」駅から徒歩3分  
 都営地下鉄三田線「内幸町」駅から徒歩2分

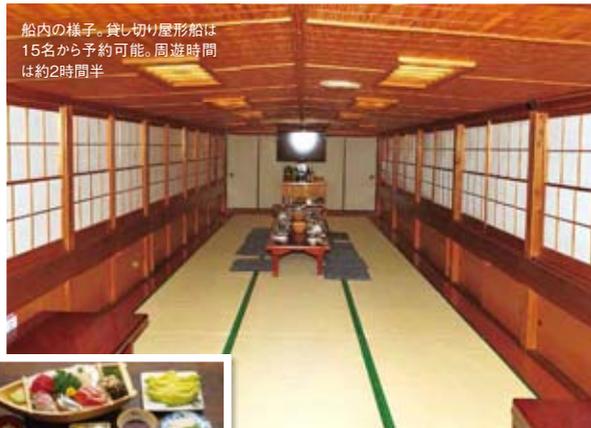
Map >> 3

SPOT DATA

- 📍 東京都港区浜松町2-13-11
- ☎ 03-3431-5629
- 🕒 受付時間=9:00~18:00
- 📅 年中無休
- 🌐 <http://www.nawasada.com>
- 🚶 JR「浜松町」駅から徒歩2分
- 🚶 都営地下鉄大江戸線「大門」駅から徒歩5分
- 🚶 都営地下鉄三田線「芝公園」駅から徒歩7分



周辺は船宿が多く、船がビッシリ。時代とともに船が大きくなってきているため、現在は一方通行のような状態だといふ



船内の様子。貸し切り屋形船は15名から予約可能。周遊時間は約2時間半



料理は天ぷら、お刺身、おそばやデザート。飲み物はビール、焼酎、ウイスキー、ソフトドリンクが飲み放題。持ち込みも可能



出航前はこちらの和室で待機。中には多数の芸能人のサインも飾られている



◀お店の外観は歴史を感じさせる。ちなみに「縄定」になる前の屋号は「閻魔」。当時のご主人が閻魔大王のように怖かったからだという▼以前使われていた漁の道具が店内に展示されている

いものを提供するために、予約が入った時に仕入れて、新鮮な素材をふるまうことを心がけている。

屋形船というと大人数が貸し切りのイメージもあるが、乗合屋形船として4名から受け付けている。その時々状況にもよるが、2〜3名の場合も相談しだいで受付可能だといふ。こうした心配りもお客様の気持ち考えた心のサービスだ。

現在、年間通して運行されているのは、お台場コースとスカイツリーコース。周遊コースは時代の変化によって、お客様のニーズに合わせて変えていく。

時代とともに変わる景色を船から楽しみつつ、縄定ではいつの時代も変わらない心のサービスを続けていく。

縄定の周辺には他にもたくさん船宿が立ち並ぶ。このあたりが漁師町だったことがその理由で、屋号に「縄」や「網」といった言葉が多く見られるのは、元々が縄定同様、縄や網を使う漁師だった影響だ。

六代目店主の竹内浩さんは、子供の頃から釣り船に親しみ、中学を卒業と同時に家業を継ぎ、40年以上に渡って船に乗ってきた。屋形船や釣り船でお客様を迎えるにあたって、何よりも大事にしているのが「心のサービス」だ。

屋形船の楽しみといえば料理。縄定では、古くからの伝統で船頭が天ぷらを揚げてくれる。釣り船を利用していた時代は、釣った魚、あるいは網で獲った魚を、その場で船頭が調理していた。そうした流れから現在も、船頭が天ぷらを揚げてくれるのだ。

こだわりの天ぷらは、冷凍物は一切使っていない。これもお客様への心のサービスの一つ。値段を考えれば安い時期に仕入れて冷凍しておくことも考えられるが、よりい

船宿 縄定は古きよき江戸の情緒を守り伝えながら、屋形船と釣り船を通じて、船遊びという優雅な世界を提供してくれる。

その始まりは江戸時代の延縄漁の漁師だった。大正時代の末に三代目の定吉氏が漁業「遊船」として「縄定」を創業。屋号は延縄の「縄」と定吉の「定」に由来するものだ。

縄定の周辺には他にもたくさん船宿が立ち並ぶ。このあたりが漁師町だったことがその理由で、屋号に「縄」や「網」といった言葉が多く見られるのは、元々が縄定同様、縄や網を使う漁師だった影響だ。

六代目店主の竹内浩さんは、子供の頃から釣り船に親しみ、中学を卒業と同時に家業を継ぎ、40年以上に渡って船に乗ってきた。屋形船や釣り船でお客様を迎えるにあたって、何よりも大事にしているのが「心のサービス」だ。

nawasada

# 船宿 縄定

江戸時代から続く伝統は「心のサービス」

歴史を感じる

特集  
1



屋形船から外を眺める

Map >> 4

SPOT DATA

東京都港区芝公園4-8-25

(芝公園内)

常時 年中無休

都営地下鉄三田線「芝公園」駅から徒歩2分

都営地下鉄三田線「御成門」駅から徒歩2分



右から左で読む形で「瓢形大古墳」の文字が刻まれている

芝丸山古墳は全長約106メートル、前方部前端幅約40メートル、くびれ部幅約22メートルほどの都内最大規模の前方後円墳。江戸時代以降、原形はかなり損じられていて、特に墳頂部や後円部西側は削られてしまっている。明治31年に日本考古学の先駆者坪井正五郎博士によって調査されたが、すでに後円部中央に位置したと考えられる主部は失われており、遺体や副葬品なども不明だ。前方部が狭く低い形態や古地状態などから五世紀代の築造と見られている。その頃附近の低地の水田地帯に生産基盤をもち、南北の交通路をおさえていた、南武蔵有数の族長の墓だといえられている。

伊能忠敬の功績を後世まで伝えるために建設された記念碑



特集1

歴史を感じる



芝丸山古墳の石碑



東京タワーもすぐ近くから見ることができる

shibamaruyamakofun

# 芝丸山古墳

都内最大規模の前方後円墳

tokyo viaduct

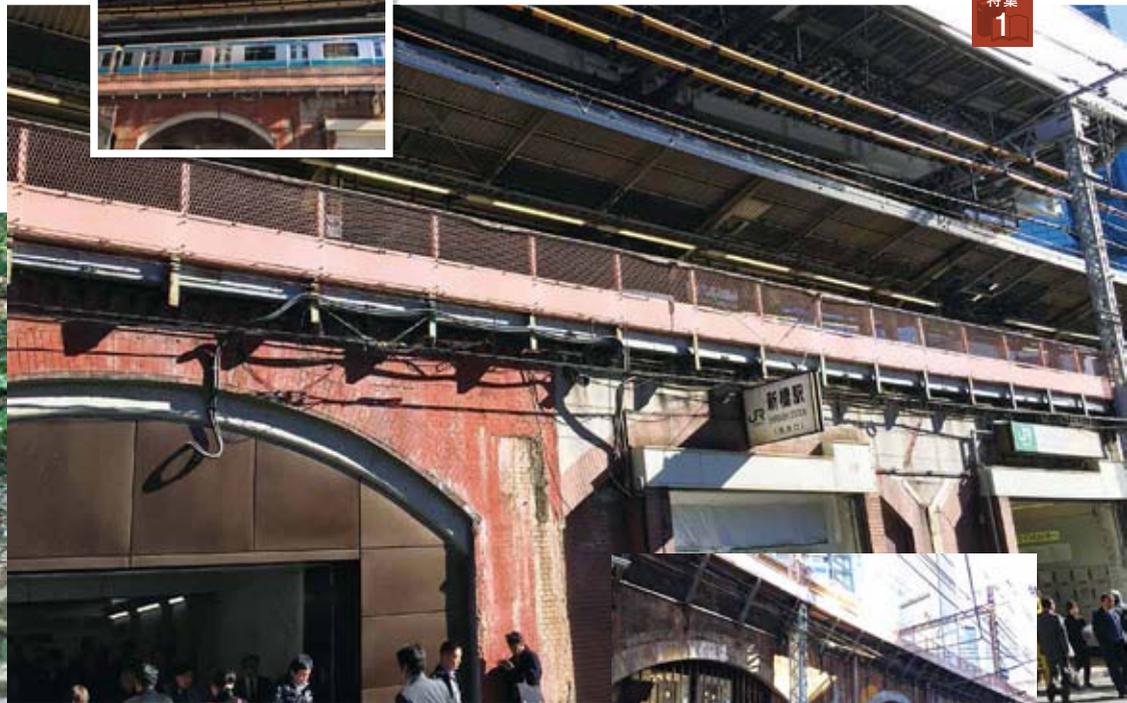
# 東京レンガ高架橋

建築100年超の煉瓦アーチ式高架橋

歴史を感じる

特集1

東京レンガ高架橋は京浜東北線、そして山手線が走る



煉瓦アーチ式の高架橋として100年以上の歴史を誇る

高架下にはたくさんの飲食店が軒を連ねている



煉瓦造となっている壁はさすがに歴史を感じさせる

日本の鉄道の8割は明治時代に完成したと言われているが、市部での高架化や路線改良により、現在も明治期の鉄道の面影を残す場所は少ない。東京における鉄道の当初の玄関口は新橋停車場であり、JR山手線と京浜東北線が走る東京駅・浜松町間にかかる東京レンガ高架橋(建設当時は新永間市街線高架橋と呼ばれていた)は、1900年(明治33年)から、1910年(明治43年)にかけて建設された日本で最初の市街地における鉄道高架橋だ。その構造は煉瓦造の連続アーチ橋であり、道路部には有道床鉄桁が架設されている。100年以上前の建造物が都心で今も目にする事ができるのだ。新橋駅の高架下にはたくさんの飲食店が並び、ランチ時、終業後は多くのサラリーマンやOLで賑わっている。建設後100年を経てなお、現役の高架橋として活用されているだけでなく、煉瓦アーチ式の高架橋として景観的にも魅力的だ。